令和２年（2020）
阿づまの光
11月号・Novembro

【金竜海土、鉱泉鉄釉（月宮宝座松＋玉水＋産井の水＋玉の井の水）】

教主さまお作　「鉱泉引出黒」

題字出口直日
通巻第６２０号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 橋本 伸作
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

至誠一貫

祭務課主任　神宮幸太郎

先日、大相撲で初の優勝賜杯を手にした新大関・正代関。熊本県出身力士としては初めてとの事。大変盛り上がりました。また、毎回、横綱や大関の昇進伝達式では、口上の際の四字熟語が話題になります。「一生懸命」「不惜身命」「精神一到」などです。新大関は、「至誠一貫」と述べました。これは、中国の儒学者・孟子の「至誠にして動かざる者いまだこれあらざるなり」が起源。誠意を尽くせば必ず人は動かされるとの意。かの有名な吉田松陰の座右の銘としても広く知られています。最後まで誠を貫くという教えで、現在も学校や企業でよく採用されています。なじみのある方は時代劇「遠山の金さん」でも、お白洲に「至誠一貫」と書かれた額が掲げられています。

誠と言えば、私たち大本信徒の身近なところでは、『おほもとしんゆ』（第４巻）に「この世には、誠ほど強い者が無いから、誠の心に持ちかえて…」など、歴代教主・教主補さまのご神書に沢山お示しがあります。また、教主さまのごあいさつの中にも「神さまにお使いいただける誠の人とならせていただく…」（平成14年新年）「しっかりと身魂を研いて、今後とも皆さまとともに誠を尽くしてまいりたいと存じます」（平成28年11月６日）など、一貫して誠の重要性をご教導いただいております。

私も梅松塾生の頃、当時塾長だった知野茂樹先生から「物事は最後まで誠意をもってやりなさい」「一旦決めたことは最後まで貫きなさい」と、20年以上経った今でもご指導いただいたことが忘れられません。

現在、大変困難な世の中ですが、少しでも明るい未来（みろくの世）が来ることを信じて、大本の精神「誠」の人にならせていただけるよう、今できることを、精いっぱい邁進させていただきましょう。

今月の聖言

心のみ誠の道にかなふとも
おこなひせずば神は守らじ

出口王仁三郎聖師

祈りとともにある生活

～本当の幸福とは～

信仰があるないにかかわらず、年に一度は何らかの形で幸せを祈らない人はいないと思います。祈りとは人間に与えられた最も尊い行為であり、大いなる命と一体になろうとする願いでもありましょう。祈りとともにある生活とは、本当の幸福とは、どのようなものでしょうか。

なぜ、祈るのか

私たちは〝祈る〟という尊い行為を、誰に教わるでもなく知っています。困難な出来事に直面しても、なんとか前向きに捉え、より良い方向へと進もうとします。また、神仏を信仰している人は、その対象にすがって、明るく前を向こうと努力します。

毎日、一日一日を大切にして、心豊かに、生き生きと生活したいものです。そのよりどころとなるものとして、心の中に自然と息づいている思い、行為が〝祈り〟であると思います。

昔から森羅万象、大自然のすべての物に神さまが宿っていると伝承され、畏敬の念を持って受け継がれています。祈りの場が寺院でも神社であっても、尊い存在に手を合わせ、その空間で祈ります。真摯（しんし）な気持ちを祈りに込めることを大切にし、目に見えない尊い存在に届ける、このことは無意識の共通認識だと思います。

冠婚葬祭の儀礼は、生活に息づいています。七五三などの節目を祝う「冠」では、神社などで祝詞を奏上してもらい、健やかな成長を祈願します。婚儀の形も多様化しています。最近の統計では、日本国内で、教会で結婚式を挙げたご夫婦が70％前後、神社で15％前後、人前結婚式も15％前後あるそうです。

葬儀は、全国平均で仏式が90％以上といわれますが、それでもキリスト教式や神式での葬儀も続けられています。ご先祖さまに対する節目の年の慰霊祭やお盆のお墓参り、戦争や災害で亡くなった御霊（みたま）に対する慰霊祭などは冠婚葬祭の「祭」にあたります。故人の霊に対しての追善供養です。

冠婚葬祭の風習のように、祈りとは、宗教宗派に因らず、生活の一部であり、常に身近にあって、私たちのごく自然の心情からくる習慣です。

〝祈る〟とは

そもそも、「祈る」とは何でしょう？

『広辞苑』には、「言葉に出して、神仏から幸いを授けられるよう願うこと」と記されています。初詣でなどで「今年もよい年になりますように」とお願いするのは、まさに神さまに請い願う〝祈り〟の姿です。

古の昔より言霊（ことたま）には神さまが宿るといわれますように、良い言霊で、前向きな祈りを捧げることが第一です。

大本は神道ですので、ほとんどの祭りごとで、天津祝詞という禊祓の祝詞が神さまに奏上されます。大本の教祖、出口王仁三郎聖師は「祝詞のことばが真の善言美詞である」また、「神の前のみでなく、人の前でも同様に善言美詞を用いねばならぬ」と示されています。

神さまに対しても、周囲の人に対しても、同じように良い言霊、良い想念で、周囲を信じ、社会全体の向上を念じることが、正しい祈りではないでしょうか。

「神、もとは一株」

人類は数千年間、人知を超えた存在に対して、畏敬の念を込め、祈りとともに生活し、文明・文化が発展してきました。世界中で、祈りを伴わない民族は、存在しないのではないでしょうか。

日本は古来から、八百万（やほよろず）の神々と祖先崇拝を尊ぶ、神道の国家でありますが、世界中にはさまざまな宗教宗派があります。

大本では「神、もとは一株である」（『大本神論』）として、万教同根、すべて同じ神さまに根ざしていると教えられています。祈りとは、我々人類の根源である神さまとつながるためのものであり、人として正しく生きるよりどころとなる世界共通の行為です。

祈りについて王仁三郎聖師は、

天地を 祈るこころは 人草の
道にかなひし まことなるべし
むらきもの 心きよめて 大前に
祈るまことを 神は受けなむ

このように説いています。祈ることは人の道である。そして心からの誠心で祈るならば、神さまはお受けくださると。

言霊と祈り

新型コロナウイルスの感染拡大が世界中で巻き起こった当時、未知のウイルスと戦う医療従事者に対し、世界各地で拍手によるエールが贈られました。この拍手のエールには感謝や喜び、信頼、そして健康への気遣いが込められています。まさしくすべてが祈りの行為です。

日常生活の中でも「がんばってね」「気をつけてね」「元気でね」と声をかけたり、手紙の末尾に「ご多幸をお祈りします」などと書き添えたりします。「行ってらっしゃい」には「無事に帰ってきますように」という願いを込めた祈りが、「いただきます」には生命を捧げてくれた食物への感謝の祈り、火や水、大地への、生命を育んでくれた恩恵に対する感謝の祈りが込められています。「おかげさまで」という日本特有

～21世紀・生きがい講座～

柿崎 哲男（かきざき てつお）
東京宣教センター愛善宣教課長

の言葉にも、その根底にあるのは、目の前の相手への直接の感謝というより、自分を生かしてくださる神仏・造物主への感謝の祈りから発するものといえるかもしれません。

ご神前で手を合わせ、祈願することだけが祈りではなく、良い想念で良い言霊を発することも、すべて祈りなのです。

古くから、日本では、言霊によって幸せがもたらされると伝承されています。

山上憶良は、日本は「言霊の幸はう国」と述べています。万葉の昔から言葉は事の葉、発する事々の端々に何らかの意味があり、良い言霊には力があると信じられてきました。

「言霊の幸はう国」について、王仁三郎聖師は、『霊界物語』第4巻の総説で、日本は「言霊の幸はふ国、言霊の生ける国、言霊の助くる国、言霊の清き国、言霊の天照国」と、説いています。

言霊や、言霊学については、たくさんのご教示があります。常に善言美詞、良い言霊、美しい言の葉を発する、魂の美しい大和心（やまと）、これが日本人の本来の姿であり、裏表のない言霊で心を通わせることが、日本人の生命であることを総じて示されています。

祈りは通じるもの

祈りとは、決して難しいことではなく、真剣に神さまに念ずれば、どなたにでもできることです。

例えば人間同士でも、相手に真剣に向き合えば、通じるものでありますし、すべてを話さずとも、ある程度のことは察してもらえることもあります。ましてや創造主である神さまのご存在を信じて真剣に念ずるのであれば、思いは通じないはずがありません。その願い、思い、祈りが、魂（たましい）の親である神さまに対して、正しい祈りとして念じていたならば、必ずや通じると思います。

子を思う親の心と同じく、その願いが欲のない、正しい祈りならば、必ずや聞き届けてくださると、私は信じます。

心をも 身をもまかせて 祈りなば
神はまことの 力たまはむ

このお歌のように、王仁三郎聖師は、身も心もすべて神心にお任せする祈りならば、神さまはお力添えをしてくださると示されます。

自分だけが良いという我よしの心を捨てて、神さまに誠の心をもって真剣に祈るならば、必ずや光が差してきます。このことに確信を持ち、迷いなく、人として最善の力を尽くしたうえで、ひたすら祈る、願うことが大切です。

創造主であり、宇宙一切を左右される根本の神さまに頼らずして、ほかに頼るべきものがあろうかと、迷わずに進むべきものだと思います。

本当の幸福とは

日常の中に祈りがあふれています。言霊には力があります。

祈れば光が射してくる
今まで見えなかった道が
見え出してくる

大本三代教主補・出口日出麿先生のお示しです。また、日出麿先生は、

ひたすらに 祈りに祈り ひたすらに
歩みに歩まば いつかいたらむ

とも、示されています。素直に、前向きに、真剣に祈ることで、光が射し、兆しがみえてくるものです。常に朗らかな人のところには、明るく前向きな雰囲気の世界が広がります。自分の心の中を天国的、楽天的にし、清々しく過すことは、自分だけでなく、周囲の方の幸せにもつながるのです。

真心をこめし祈言（のりこと） みじかくも
恵みの神は 聞こしめすらむ

王仁三郎聖師のお歌です。祈りは人の心を強くし、広大な活力を生み出します。また、ご神前などの祈りの場で、気持ちを集中し、心ゆくまで祈り続けると、不思議と活力が湧いてきて、明るいエネルギーが充電されます。

真摯な祈りが神さまのみ心に沿う時には、ご神助を得て、物事が〝箱指したように〟すらすらと進むものだと言われます。

さりながら 祈りにまさる 宝なし
夢なまよひそ 祈りの道を

祈りは人の心を強くします。祈りとは、心の中に、少しずつ、天国を築き上げてゆくものだとも教えられています。恩頼（みたまのふゆ）、魂の向上、徳という大きな宝物、魂への栄養や恩恵、潤いを頂くものであります。

このような時期だからこそ、真剣に神さまと向き合い、これまで当たり前だった日常生活に感謝し、感染症の終息や、社会活動の復興、そして周囲の方々の幸せを願うことが、大切ではないでしょうか。

掲載文は、令和2年5月20日に大本東京本部から配信した「21世紀・生きがい講座」講演録の要旨です。

東光苑月次祭

10月東光苑月次祭は、10月11日午前10時30分から、斎主・加藤道明祭務課長のもと執行され74人が参拝した＝**写真左**。

当日は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、大本総代、関東教区主会長をはじめ、各分所・支部から代表参拝をお願いしての祭典となった。また同時に自宅からの参拝を推進するため、祭典の模様はインターネットを通じ配信され、映像を通して遠隔地からも遥拝された。

祭員は本部職員が、また『大本神諭』拝読は菊池まゆみ総務管理課主任が担当。1階ロビーでは、マイ箸推進のため、箸袋の直心会バザーが催され、色とりどりの箸袋を手に取る参拝者でにぎわった。

祭典後、関東教区から選出された大本総代の紹介が行われた。本年9月1日に21期大本総代の役員が任命され、関東教区推薦総代として飯田俊明氏が、また、総局推薦総代として福島主会長の嶋貫光喜氏、群馬主会長の朝倉暢子氏がそれぞれ選任された。引き続いて、飯田総代、朝倉総代が、それぞれ就任あいさつを行った。

引き続き、橋本伸作東京宣教センター長があいさつに立ち、今世紀中に到来すると示された〝みろくの世〟のあり方について触れ、「教主さまのお示しの通り、今はみろくの世への実践の時代に入っており、善と悪との分水嶺の真っ只中にあります。われよしの心を改め、お互いに認め合い助け合い、笑顔で喜ぶ未来に向かって、元気を出して進ませていただきたいと存じます」と述べた。続いて、本年7月20日付の人事発令で愛善宣教課主幹兼駐在宣伝使として着任した西山桂一郎氏があいさつした。

21世紀・生きがい講座

第210回21世紀・生きがい講座は9月16日午後7時から、大本東京本部YouTubeチャンネルにて配信され、米川清水・元NTTファシリティーズ常務取締役が「大本の伝統建築に学ぶ日本の心」～研ぎ澄まされた形と精神～と題して講話した＝**写真下**。

米川講師は建築の専門家の立場から、宗教、芸術、建築をキーワードとし、その関連性について歴代教主さまのお示しを引用しながら紹介。特に聖師さまの〝芸術は宗教の母〟とのお言葉に関し、「神が創造された神羅万象の美の根源に近づくためには、自らがお茶、短歌、絵など芸術を実践することを通した、たゆまない身魂磨きが欠かせないことであり、それが宗教の歓びでもある」と述べた。

また、日本の建築と庭は長い歴史の中で、豊かな風土、日本人の美意識、精神性によって培われた、自然と一体化し研ぎ澄まされたものであると説明。「〝神が大自然をお創りになり、自然は神そのもののお姿〟であることを考えれば、わが国の伝統建築は、まさに神と同化した美そのものと言える。そして、隅々まで日本古来の伝統建築の粋をもって造営された大本の長生殿、緑寿館そして神苑は、まさにその神と共に生きる至高の姿を、私たちにお示しいただいているものである」と語った。

東光苑・七五三詣り

～お子様、お孫様の成長に感謝を込めて～

東京本部・東光苑のご神前で、健やかな成長の感謝と今後の無病息災を、ご祈願されませんか。

七五三詣りは、3歳、5歳、7歳を迎えるお子様が、11月15日前後に、祝詞奏上によるご祈願とお祓いを受ける行事です。節目の年を迎えられたお子様、お孫様に、七五三詣りをおすすめいたします。

七五三詣りの祭典は、11月8日（日）の東光苑秋季大祭に合わせて行われます。また、個人でのご参拝も、曜日を問わず受け付けております。別室での着付け、記念撮影も可能です。

詳しくは、下記、東京宣教センター祭務課へお問い合わせください。

大本東京宣教センター：Tel 03-3821-3701（代表）

祭典内容：七五三詣祝詞奏上、玉串捧奠、等
ご下付品：千歳飴、お菓子
御玉串料：5,000円以上

12月 東光苑祭典・行事予定

13日（日）午前10時30分～
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭

16日（水）午前10時30分～
開祖聖誕祭（185年）

16日（水）午後7時～
21世紀・生きがい講座
（東京本部YouTubeチャンネルで配信）
講題　アスリートたちに学ぶ
目標へのプロセス
講師　具志堅幸司
（日本体育大学学長・ロス五輪金メダリスト）

19日（土）・20日（日）午前9時30分～
東光苑大道場修行（臨時開催）

25日（金）午前10時30分～
出口日出麿尊師毎年祭（29年）

※行事の延期や中止、祭典の参拝をご遠慮いただくなど、予定を変更する可能性があります。